

# JR西日本財団 NEWS

公益財団法人 JR西日本あんしん社会財団

〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目4番24号 TEL: 06-6375-3202 FAX: 06-6375-3229

E-mail: jrwwzaidan@westjr-anshin-f.jp http://www.westjr-anshin-f.jp/

2012.1 発行 Vol.6

## CONTENTS

- 1 ▶ 「安全セミナー」の開催
- 4 ▶ 「救急フェア」の開催
- 5 ▶ 「活動助成報告会」の開催
- 6 ▶ 助成事業紹介
  - 公募助成先の活動紹介 (5 団体)
  - 公開講座「『悲嘆』について学ぶ」
- 8 ▶ TOPICS
  - 今後の活動予定

## 「安全セミナー」～災害と危機管理～



平成 23 年 12 月 21 日 (水)、尼崎市内において、行政機関や公益事業者などの安全担当者をはじめ市民の方々を対象とした「安全セミナー」を開催しました。

今回で3度目となる本セミナーでは、日本列島を襲った東日本大震災や台風 12 号等を契機として、災害に対する備えの重要性が改めて強く認識されたことを踏まえ、「災害と危機管理」をテーマとしました。当日は、ほぼ会場いっぱいの約 500 名の方が参加され、昨今の関心の高さから熱心に聴講されていました。

冒頭、佐々木理事長からの挨拶の後、京都大学防災研究所付属巨大災害研究センター災害リスクマネジメント分野教授の岡田憲夫さんから、「参加型災害リスクマネジメント～まちづくりや組織の戦略的取り組みとして」と題した講演がありました。防災に関しては、住民が主体的に行う活動だけでなく、地域コミュニティと行政、企業、NGO 等が連携して取り組む参加型災害リスク

マネジメントが不可欠なアプローチとなっているとの提言があり、鳥取県智頭町及び京都市中京区での取り組み事例等を交えつつ、災害や致命的な事故に遭うリスクを減らすためには総合的な視点から考えることが重要であるといったことの解説がありました。

続いて、一般社団法人日本ガス協会常務理事の池島賢治さんから、「東日本大震災を教訓として『エネルギー』を考える」と題した講演がありました。阪神淡路大震災からの教訓により、重要な社会



京都大学防災研究所付属  
巨大災害研究センター 岡田教授



日本ガス協会 池島常務理事

インフラである都市ガスの地震対策がどのように進化し、そして東日本大震災に際してそれがどのような役割を果たしたかについて紹介していただくとともに、被害規模や被害状況に応じたマニュアル整備と活用の徹底など、他の事業者にとっても大変参考となるお話がありました。さらに、東日本大震災によって浮き彫りになった課題を通じて、今後の日本のエネルギーのあり方についての提言がありました。

※講演内容の要約を P2・3 でご紹介しています。なお、講演録については今後、財団ホームページに掲載する予定です。

### 【安全セミナーに参加された方からいただいたお声】

参加された皆様からたくさんのコメントをいただきました。本当にありがとうございました。

- 地域での祭礼と防災活動を結び付ける事例のお話は興味深かった。
- 地域での住民参加型まちづくりの重要性がよくわかった。
- 題材が身近でタイムリーな内容であり、興味を持って聞くことができた。
- エネルギーの現状と将来の課題について有意義なお話であり、考えさせられた。
- 安全に関する具体的で実践的な内容であり、危機対応の参考になった。
- 安全について考え、安全意識を高めるきっかけとして良い講演を聞くことができた。
- 災害と危機管理について、研究者と事業者の異なる視点での安全に対する切り口を学べてよかった。
- 都市ガス事業の安全対策についてはなかなか知る機会がなかったが、今回初めて知ることができて非常に役に立った。特に安全対策に対する考え方やマニュアル化の取り組みがすばらしかった。
- 自分が働く業界とは異なる業界における安全の取り組みや思想について知ることができて大変有意義であった。



**岡田 憲夫** (おかだ のりお) さん

京都大学防災研究所附属巨大災害研究センター災害リスクマネジメント分野教授。1947年生まれ。京都大学大学院修士課程（土木工学専攻）修了。鳥取大学教授を経て、1991年に京都大学防災研究所教授に就任。2009年から2年間、同研究所所長を務め現在に至る。専門は、災害リスクマネジメント、土木計画学（計画システム分析）、社会システム工学。元国土庁・国土交通システム・リダンダンシィ委員会委員長等歴任、現在大阪府都市計画審議会会長などを務める。

安全という言葉には、「やすらかに・やすく・まっとうする」という意味が込められていますが、「やすらか」と「やすし」とのせめぎあいがあります。20世紀の近代化の歴史は、分業・分化が進められ、その結果「やすし」が追求される一方、「やすらげくまっとうする」ということは置き去りにされてきたと言えます。昔の人は、自然そのものをそのまま当たり前ものとして、そのまるごとの姿に畏れおののきながら対応することを迫られていましたが、21世紀はもう一度このことに思いをいたして、ある意味で「進化した昔帰り」をすることが求められているのではないのでしょうか。日常というものは、突然発生する災害も含まれたうでの日常であるということをも今一度思い起こし、地域コミュニティの再構築を、地域自らが主体となって、行政や専門家やNGO等と共に取り組むということが重要になってきています。総合的な視点により地域を構築していくことが災害に対する効果的なアプローチになると思います。

阪神淡路大震災の後、私たちの研究グループは都市を五重の塔に見立てた「五層モデル」を提案しました。一番下の基盤に自然があり、その上に第一層（文化・慣習の層）、第二層（政治・経済・社会の仕組みの層）、第三層（社会基盤施設の層）、第四層（土地利用・建築空間の層）があり、一番上に第五層（生活・活動の層）があります。東日本大震災では、第三層から上が完全に崩れ、第一層や第二層についても見直さなければ五層の塔を再構築できない事態となっています。五層の塔は、大自然の上に人間社会が約束ごと、つまり「想定」として建てた物ですから、大自然はあずかり知らないことです。ですから、私たちは「想定」に甘んじることなく大自然の振る舞いをもっと学び、どのように付き合うかということを考えていかなければなりません。

では、私たちの行動の変化を促したり、組織の体質改善を求めるにはどうしたらよいのでしょうか。私がこれまで約30年にわたり地域の人たちと現場で取り組んできた経験から最も有

効と考えているのは、小さな変革・変化を積み上げていく方法です。小さな現場に風穴を明け、それをもう少し大きな現場で風穴を明け、さらにもっと大きな現場に風穴をあけます。その結果を大きな枠組みとして制度化し、今度は反対に順次により小さな現場へ下ろしていきます。これを繰り返すのです。これは、PDCAプロセスのらせん階段を上り下りする成功モデルづくりであり、私は、「峠越え、峠越え、また峠越えのまちづくり」と言っていますが、「適応的マネジメント」という災害リスクマネジメントの最先端の研究領域となっています。ちなみにパーフェクト（完璧）とコンプリート（完結）という言葉は似ているようで全く違います。パーフェクトは、例えば目的の山の頂上を見定めようとしませんが、なかなか完全には見えないので見えるまで待とうとなり、結局一歩も登らず、得てして何もやらないことの言い訳になってしまいます。一方、コンプリートというのは、らせん階段をちょっとでよいから一周まわって完結することで、少しずつでも実践的な知識を蓄えることにつながります。何かを本当に変えようと思うならば、いきなり大きなことを考えるのではなく、変えることのできる小さなことを見つけて実践し、それを繰り返していくというアプローチが大事であると言えます。



さて、東日本大震災からどのような教訓を得るのかということについてですが、地域や組織がこれまで前提として考えてこなかった「存亡の危機」や「生存の淵」に立つというリスクを本気で見つめ、それに対する最悪のシナリオをいかに考え尽くすかということであり、地域や組織にとって極めて大切な課題です。しかもそれは協働作業でなければできません。最悪のシナリオを考えていくには、日常の仕切りを取り払い、平らな関係とトップダウンとを組み合わせたブレインストーミングの場で考えていかなければ難しいと思います。例えば、私たちが考案した四面会議システムによりディベートの場を設けるやり方は、まちづくりにおいて実績があり、最悪のシナリオをお互いの想像力を喚起して議論していく場面でも有効であると考えています。こうした取り組みは、危機意識・切実感が原動力となりますが、誰かが着想し、創造力のある構想を打ち出し、イニシアティブを取ることで、支援者を巻き込んだ協働作業が生まれます。地域において小さくてもできることから実践を積み重ねていくことで地域コミュニティが活性化され、行政や企業、NGO等と共に安全について取り組むことで、社会の革新を生み出す推進力につながっていきます。





池島 賢治 (いけじま けんじ) さん

一般社団法人日本ガス協会常務理事。1957 年生まれ。1981 年京都大学大学院工学研究科（土木工学専攻）修士課程修了。大阪ガス株式会社入社。その後、エネルギー事業部計画部長、兵庫エネルギー営業部長、エンジニアリング部長を歴任。2010 年執行役員就任とともに現職。

まず、都市ガス事業の地震対策についてお話しします。今回の東日本大震災では、広範囲のガス事業者が被害を受け、パイプラインだけでなく製造設備までもが被害を受けました。被害を受けたガス事業者に対しては、ガス協会を通じて復旧応援隊（全国 59 事業者からピーク時で 4,100 人、延べ 10 万人規模）を派遣し、1 ヶ月程度での早期復旧を成し遂げることができました。

地震対策は、「設備対策」「緊急対策」「復旧対策」の三位一体で行います。まずは設備面の被害を最小にしようと努めますが、どうしても対応しきれない箇所は、とにかくガスを止め、二次災害を徹底的に防ぐという緊急措置をとります。しかし、ガスを止めるということは、緊急措置後の再開に向けた復旧策も合わせて考えなければなりません。

「設備対策」は、LNG タンクや高圧導管といった重要設備は絶対に壊れてはならないという観点から対策を取っており、今回も被害は全くありませんでした。また、低圧管は耐震性の高いものに順次取り換えを進めており、今回の被害率は阪神淡路大震災時の 10 分の 1 程度であり、耐震化の成果がはっきりと表れています。

「緊急対策」は、揺れに応じて自動的にお客さま宅のガスを遮断するマイコンメーターや、エリアブロック毎に遠隔操作でガスを遮断するシステムなど、何重もの遮断設備を整備しています。特にマイコンメーターは全家庭に普及しており、日本が世界に誇れる機器と言えます。遮断システムも阪神淡路大震災時から大きく進化しており、供給停止までの時間は格段に短くなっています。

「復旧対策」は、どれだけの体制が普段から準備できているかにかかっており、日本ガス協会では被害規模や被害状況に応じた支援体制について費用分担等の細部に至るまで盛り込んだマニュアルを整備しております。今回、仙台市において、約 30 万戸がガス供給開始から 25 日間で復旧できたという事実からも、阪神淡路大震災時と比較し復旧対策の進捗が認められると思います。マニュアルは徹底して整備、見直しを行い、使えるようになるまで訓練しておく必要があります。私どもは今回の震災を踏まえさらに対策を進化させるべく、現在マニュアルの見直しを行っているところです。

次に、都市ガスの安全対策についてお話しします。都市ガス事業の歴史は安全との戦いであったと言えます。ガス事故による死亡者数は、1980 年頃は年間約 100 人でしたが、一酸化炭素を含まない天然ガスへの転換とマイコンメーターの普及といった取り組みを進めた結果、去年は年間 1 人というところまでできました。99. 数% までではできているということになります。

これをさらに死亡事故ゼロという最終目標までやりきってしまうのが安全への取り組みであると思っています。事故の原因分析に基づき、お客様がガスを使用する場面での事故削減をターゲットとし、教育や啓発といったお客様と協働した対策を進めていく取り組みを考えていかなければならないと思っています。

最後に、これからの日本のエネルギーについてお話しします。まず、資源の確保についてです。現在、日本のエネルギー自給率は、原子力を含まないとすると 7% と非常に脆弱な状況にあります。主要エネルギーとして改めて石炭に目を向けていくことが大事になっていますし、今後石炭をクリーンに使う技術が必要になると思います。また、天然ガスについては、シェールガスの採掘技術が確立し、既に欧米各国はシェールガス資源の開発を進めております。今後、日本は資源調達をどのようにしていくのか、そしてどういうポートフォリオを作っていくのが問われています。

2 つ目はエネルギー供給インフラについてです。日本には 32 箇所の LNG 基地がありますが、一部を除きパイプラインで相互に繋がってはいません。天然ガスのパイプライン網が強力に整備されている欧米や中国・韓国と比べ、供給インフラが非常に脆弱であり、石油や石炭に依存せざるを得ない地域を生む背景ともなっています。日本でも、海外を含めたネットワーク構築といったような大きな構想を持つことが、本当の意味での安全性や信頼性につながるのだと思います。

3 つ目は、エネルギーの効率的な使い方についてです。今後、家庭用のエネルギーとして、燃料電池・太陽電池・蓄電池を使っていくことで、エネルギーの需要と供給という面での従来の概念が大きく変わることになると思います。こうした大きな変動の中で、エネルギーの使い方を考え直さなければならないと思います。

東日本大震災の教訓やこれからの日本の課題を踏まえると、次世代のエネルギーは、「安定供給」「経済性」「環境適合性」という 3E に「安全性の確保」(S) という視点を加えた総合的な構想に基づいて考えていかなければなりません。





「救急フェア」では、多くの人が集まる駅を中心に消防等の協力を得ながらJR西日本との共催により、AEDの操作や心肺蘇生法のほか、駅ホームからの転落などの際に駅係員等へ知らせるための「非常ボタン」の操作を気軽に体験していただいています。

「いのちにつながる」活動として、誰もが気軽に参加できる雰囲気づくりに心がけ、自治会などの地域の方々とも一緒になって「救急フェア」を開催しています。



## まちづくりに繋がる「救急フェア」～平成23年10月 JR尼崎駅での開催について～

「救急フェア」の取り組みは、平成22年10月のJR尼崎駅からスタートしました。今年度のJR尼崎駅のフェアでは、尼崎市潮江地区の自治会組織である潮江社会福祉連絡協議会様にもご協力をいただき、昨年以上に有意義なものとなりました。

今回協力していただいた同協議会の川元さん、藤原さんに、住みよい「まち」とする為に日々奮闘されている取り組みについてお話を伺いながら、「救急フェア」についてのご意見をお聞きました。

—この度は、JR尼崎駅での「救急フェア」に全面的にご協力いただき、ありがとうございます。おかげさまで昨年以上に多くの方々にご参加いただき、有意義なフェアとなりました。

私たちは、この潮江地区をもっと良くし、更に多くの人に暮らしてもらいたいと思っています。「まち」全体が元気になることで「まち」は発展していきます。ですからチャンスがあれば自分たちの出来る範囲で様々な取り組みに協力していきたいと思っています。「救急フェア」は、この街にとって必要な取り組みと感じたからこそ、今回協力させていただきました。

—「まち」づくりの為に、普段から駅周辺をはじめとして様々なことに取り組まれているのですね。

駅を利用される方も含めみんなが市民だと考えています。駅やその周辺がより良くなれば、より住みよい「まち」になると考え、様々な取り組みを行っています。例えば、私たち地域の住民が駅前公園広場の掃除を行っています。さらに市が設置しているプランターの花も私たちが管理をしています。「駅をご利用する方々や住民の皆さんが花を見て少

しでも心に安らぎを感じてくれたら」そんな気持ちから住民みんなで花を植え替えています。「誰かがするだろう」では前に進みません。だからこそ、私たちが出来ることは私たちがやっています。本当にこの潮江地区をよりよい「まち」にしたいので。

自分の子どもや孫が「この『まち』はいい、住みよい『まち』」と言えるようにしていきたいと考えています。



潮江社会福祉連絡協議会 (左) 川元さん、(右) 藤原さん

—皆さんが目指す住みよい「まち」づくりにとって、「救急フェア」はその一助となりますか。

事故や災害等がもし起ったら住民同士が助け合わなければなりません。住民みんなが、心肺蘇生法やAEDといった救命処置をいつでもどこでも誰

に対しても出来るようになることを願っています。救命処置の普及活動といった取り組みは、そこに住んでいる住民が実際に体験しなければなりませんと思います。JR西日本と財団はそのチャンスを私たちに与えてくれました。住民同士の絆がより深いものになるきっかけとしても、この「救急フェア」にもっと多くの住民に参加していただきたいと思っています。

—私達も「救急フェア」の取り組みが、安全で安心なまちづくりに繋がってほしいと願っており、これからも継続していきたいと思っています。

「救急フェア」は、地域住民にとって非常に良い取り組みなので、今後も開催にあたっては是非協力していきたいと思っています。そして、どうすればより多くの人たちに参加していただ

るのかを一緒になって考えましょう。例えば、地域の方々が集まる場において「救急フェア」の開催趣旨を直接顔を見ながらお伝えすることで、より深く意図や思いが伝わり、参加者の増加に繋がるのではないのでしょうか。「人は感情で動く」と思っています。多くの住民の方と直接話すことにより、更にもっと良いものが生まれるかもしれません。大変だと思いますが、これからも「救急フェア」を盛り上げるために一緒に頑張りましょう。

—地域の方々にとってよりよいフェアとなるように頑張ってください。これからもよろしくお願ひします。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

### 三ノ宮駅・伊丹駅での様子

今回のフェアでは、JR西日本のマスコットキャラクターであるカモノハシのイコ美も駆けつけ、フェアを大いに盛り上げてくれました。また、JRのミニ制服を着ての写真撮影会も開催され、ご家族連れの方々にも好評で、ふれあいのある賑やかなフェアとなりました。  
※西日本鉄道OB会の方々や㈱ジェイアール西日本総合ビルサービスの方々もスタッフとして参加しており、JR西日本グループ一体となった取り組みとして開催されました。



様々な年代の方に体験をしていただいています。  
(非常ボタンコーナー：三ノ宮駅)



親子で体験していただきました。  
(AED・心肺蘇生法の体験コーナー：伊丹駅)



### JR西日本の「ホーム非常ボタンキャンペーン」との連携

JR西日本では、年末年始やお盆といったお客様のご利用が特に増える時期の前に、ホームの安全設備の操作体験をしていただく「ホーム非常ボタンキャンペーン」を実施しています。この冬は、高槻駅、神戸駅、宝塚駅、奈良駅で、「AEDの操作や心肺蘇生法」を体験していただく取り組みを行いました。



ご協力いただいた関係機関 (五十音順)

- 【消防・警察】 尼崎市消防局、伊丹市消防局、大阪市北消防署、大阪市天王寺消防署、京都市下京消防署、京都府警察本部地域部鉄道警察隊、京都府七条警察署、神戸市中央消防署、三田市消防本部、宝塚市消防本部、宝塚市西消防署、
- 【自治体】 尼崎市、大阪市、三田市、三田市教育委員会
- 【NPO・自治会等】 アリオいたみ自治会、NPO法人宝塚NPOセンター、NPO法人場とつながりの研究センター、三田市防火安全協会、潮江社会福祉連絡協議会
- 【グループ会社等】 大阪ターミナルビル(株)、㈱ジェイアール西日本総合ビルサービス、京都駅ビル開発(株)、西日本鉄道OB会

当財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向けた地域における活動や、独創的・先駆的な研究に対する公募助成を実施しており、これまでに 65 件、総額約 6,300 万円の助成を行っています。そのような中、単に助成を行うだけでなく、助成先での活動成果の社会的還元や交流といったことも考え、初めての「活動助成報告会」を開催しました。

報告会では、平成 21 年度に活動された助成先の皆さんより、1 年間の取り組み成果について熱意あふれる報告をいただきました。また、報告会終了後の「交流会」では、NPO の中間支援組織や財団役員等も交え、活発な意見交換が行われました。

当財団では、助成先同士のネットワーク構築にもお役に立てるよう、今後も公募助成事業に取り組んでいきます。

### 助成先からの発表の様子（順不同）



(左上より) NPO法人高槻ライフサポート協会  
フレンズ!川西フェスティバル実行委員会事務局  
みんなでつくる学校とれびりんか  
NPO法人大阪ライフサポート協会  
(中央) レスキューロボットコンテスト実行委員会

(右上より) NPO法人あすかコミュニティ  
應典院寺町倶楽部  
NPO法人大阪被害者支援アドボカシーセンター  
関西学院ヒューマンサービスセンター



「交流会」ではこれまで知り合うことのなかった団体や研究者の方とも交流を図ることができ、新たな活動が生まれるきっかけとなっています。

### 「活動助成報告会」に参加して

関西学院ヒューマンサービスセンター チーム西宮・副代表 **中谷 和貴さん**

私たちが取り組んでいる平成 21 年の台風 9 号により甚大な被害を受けた兵庫県佐用町の復興支援について、「活動助成報告会」で発表できたことは、大変貴重な経験でした。これまで交流のなかった様々な団体とも知り合うことができ、特に日本レスキュー協会さんとはその場で意気投合し、12月25日に佐用町で開催された歳の市「久崎市（くざきいち）」（約30～40年ほど前に途絶えていたが平成 18 年に久崎地域づくり協議会を中心とする実行委員会により復活）には、セラピードッグとともに共同で参加することとなり、佐用町の方を元気付けるよりよい活動となりました。「活動助成報告会」は、自らの活動に対する刺激となるだけでなく、助成先同士の交流、連携を図る絶好のチャンスだと感じました。



コミュニティカフェ  
での中谷さん



佐用町の方と  
セラピードッグ

#### 【訪問メモ】「久崎市」を訪ねて

関西学院大学ヒューマンサービスセンターのコミュニティカフェでは、同センターの大学生と地元の方々が世代を超えて楽しくお話をされており、日本レスキュー協会のセラピードッグも和やかなひと時を提供していました。両団体のところには多くの方々が集まり、地元にも溶け込んだ素晴らしい活動となっていました。

当財団では、事故、災害が起こった際の備えやその後のケアといった視点から、「安全で安心できる社会づくり」に寄与しうる活動や研究に対して助成を行っています。今回は、平成23年9月～11月に行われた助成活動をご紹介します。(順不同)

なお、平成24年4月～平成25年3月に行われる活動や研究を対象とした公募助成は、10～11月に亘って募集させていただきました。大変多くのご応募ありがとうございました。現在、審査、選考を進めており、3月頃には助成先が決定する予定です。(第2回東日本大震災に関する活動助成の募集も同時に募集し、1月中には助成先を決定する予定です。)

## 「子ども応急手当普及&水面安全サポーター育成」

NPO 法人オーシャンゲート ジャパン

毎年たくさん子どもたちが水の事故で亡くなっています。オーシャンゲート ジャパンでは子どもに対する応急手当と水面安全救助法の普及に取り組んでおり、講習会を毎月1～3回程度開催しています。

10月23日の講習会には、体育教諭を目指す学生たちが参加し、成人用、小児用、乳児用のダミー人形を使い、子どもと成人に対する応急手当の違いを体験したほか、溺れた子どもが呼吸をできずに心臓も止まりかけている場合には人工呼吸を優先する等の応急手当方法を学びました。

水面安全サポーター育成のための救助法訓練では、実際にプールに入り、身近にあるものを活用した溺者救助方法等を体験しました。参加者は、水の事故では救助者の二重遭難を防ぐために必ず複数名で連携することが不可欠であることも身をもって体験し、繰り返し訓練に取り組んでいました。



水上での人工呼吸等救助法訓練の様子  
(写真提供：NPO 法人オーシャンゲート ジャパン)

## 「防災アドバイザー講座」

NPO 法人あすかコミュニティ

あすかコミュニティでは、昨年度の当財団からの助成金により設置した「地域防災センター」を拠点に、地域コミュニティの防災意識向上や防災弱者である高齢者・障がい者の方への支援などの取り組みを行っています。

その取り組みの一つとして、地域の防災ボランティアを養成する「防災アドバイザー講座」を定期的に開催しており、10月6日の講座には、家族連れのほか、地元の小中学生や婦人会、学校関係者など60名を超える方々が参加されました。冒頭に、東淀川区役所職員による地震対策に関する学習会が行われ、「非常持ち出し品とは何か」「地震が起きたらまず何をするか」など日頃からの備えについて、グループワークで活発な意見交換がなされました。その後、東淀川消防署救急隊員による止血法や火傷の処置、三角巾の使い方など、災害時だけでなく日常生活でも役に立つ応急手当の実技講習が行われました。大人だけでなく三角巾を使ったことがない子どもたちも熱心に講習を受ける様子を見て、防災に対して地域で取り組む熱意を感じることができました。



三角巾を使った実技講習の様子

## 「フレンズかわにし Lifesaving Lecture&Concert」

フレンズ!川西フェスティバル実行委員会事務局

「JR福知山線列車事故を忘れてはならない」というメッセージを発信し、事故や災害に遭遇した時、どのように助け合い、乗り越え、支え合っていけばよいのかを考える場として、音楽イベント『命を守るためにできること～音楽でつながる絆～』が、10月2日に川西市内で開催されました。



トークセッションの様子

第1部ではJR福知山線列車事故のご被害者3名によるトークセッションの他、川西市消防本部と消防団による救急講習が行われました。ご被害者の方からは、「みんなに支えられて今の自分がある。事故で生まれた『つながり』を大切にしていきたい」「心の傷は目に見えない。一人ひとりが気付き、手を差し伸べる勇気を持ってほしい」といった強いメッセージが伝えられました。

第2部のJR福知山線列車事故のご被害者によるミニコンサートでは、事故に関する様々な思いをのせた曲が演奏され、演奏された方のみならず会場の方々それぞれが改めて事故への思いを巡らせることのできる場となりました。



ミニコンサートの様子

(写真提供：フレンズ!川西フェスティバル実行委員会事務局)

## 公開講座「子育てダイエット」

西宮カウンセリング研究会

西宮カウンセリング研究会は、西宮市内3箇所に設置した相談所で心の悩みや痛みを抱えた方々の相談を受けサポートを行っています。また、医療機関と連携を図りながら、阪神淡路大震災やJR福知山線列車事故などの自然災害や事故、犯罪被害等により心的外傷後ストレス障害を抱えた方々への対応も積極的に行っています。

毎年10月頃には、福祉、医療、教育分野等から「こころの悩み」に関する時流に沿ったテーマを取り上げた市民公開講座を開催しています。今年度は子育てをテーマに開催され、関西外国語大学教授植田 都氏から、子どもは日常生活で親に話を聴いてもらい、共感してもらうことで、他者に対する信頼感や自尊心を育むことができるということを、ロールプレイングを用いて説明がありました。また、参加者同士で人の良い面と悪い面を列挙し、シェアし合うことで他者に対する新たな『気づき』を見出す作業(ワーク)を行いました。

子育ての場面に限らず様々な人間関係全般に活用できる内容となっており、参加者にとっては自らを振り返る良い機会となっていました。



公開講座の様子

助成を行っています。

## 「ふれあい会」

認定 NPO 法人日本レスキュー協会



災害や事故の負傷者や遺族・遺児の方々の精神的・心理的打撃や不安を、緩和・軽減するドッグセラピーを行う場として、日本レスキュー協会では定期的に「ふれあい会」を開催しています。

10月1日に開催された「ふれあい会」には、約15名の方が参加されており、セラピードッグとふれあうことで参加者の表

「ふれあい会」の様子 (写真提供：認定 NPO 法人日本レスキュー協会)

情は自然とほころび、心温まる場となりました。また、同団体では、新たなセラピードッグ育成にも力を注いでおり、現在助成金により育成されているセラピードッグ候補の「温 (はる)」「皆輪 (みわ)」「にこり」の3頭も参加者とふれあっていました。東日本大震災などにより多くの派遣要請が寄せられている中、今後の活躍が期待されています。参加者は「ふれあい会」終了後も犬たちとの別れを惜しむかのように、しばらくふれあっていました。



セラピードッグ候補の3頭

## 助成事業紹介

## 公開講座「『悲嘆』について学ぶ」

(上智大学グリーンケア研究所)

上智大学グリーンケア研究所では、「事故や事件、災害、病気等により愛する人をなくした方の悲しみ、苦しみに共感し、ともに歩む」ことを目的に、「『悲嘆』について学ぶ」を開講しています。



第9期公開講座 (12月9日) で「夢を託して希望を描く」をテーマに講演いただいた永田萌先生にお話を伺いました。

### 永田 萌 (ながた もえ) さん

絵本作家、イラストレーター。「カラーインクの魔術師」と呼ばれる類まれな色彩感覚と「花と妖精」をテーマとした夢あふれる作風で画業 30 年を経た今でも第一線で活躍する。1987 年に『花侍月に』でポーロニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞。美しい画面が特徴の作品は、人の心をいつの間にかファンタジーの世界に導き入れてくれる。本講座では第5期、第9期で講演。

—絵本の挿絵やイラストレーションを描く時にどのようなことを意識されていますか。

絵本の挿絵やイラストレーションとは、本来、情報を伝達し理解を促す役目をもっています。しかし、写真とは異なり、絵にはクッションのように衝撃を和らげながら事実を伝えることができる不思議な力があります。例えば、講座で紹介した阪神淡路大震災をテーマとした『やくそくするね』という物語では、震災当時の写真を見て私自身が感じたことを一旦こころに沈め、私の絵で表現するのであればどうなるかと自問しつつ、決して震災の悲惨でつらいシーンが曖昧にならないように描きました。絵があることでより思いが伝わり、よりこころを揺り動かすことがあります。イラストレーターとして時代に寄り添いながら今を感じ、事実を伝えていくことが大切だと考えています。

—「自身が感じたことをこころに沈めて描いた」と伺いましたが、先生自身のこころと絵はどのように関係していますか。

絵には素直な自分が出ます。まさに絵は自分自身のこころを映し出す鏡のようなものです。講座で紹介したように私が描いてきた絵は、阪神淡路大震災や母との死別を体験しながら変化してきました。それは、こころが成長し奥行きが出てきたからだと思います。東日本大震災の被害状況を見て、以前の私ならつらさや悲しみといった気持ちで一杯だったと思いますが、これまでの経験があったからこそ立ち止まって悲しんでばかりいないで、今の自分にできる精一杯のことをしていかなければならないと感じています。つらさや悲しみの中で今を生きる人の思いに応え、力となるような絵を描かなければという思いがより一層強くなりました。

—悲しみとイラストレーションや絵本との関係をどのように捉えていますか。

子どもの頃、大人になれば泣く事も悲しむ事もないと思っていたのですが、実際には質が変わっても悲しみがなくなることはなく、手

に余る悲しみというものがあるのだと気づきました。私たちは悲しみにくれている人に早く元気になってと励ましてしまいがちですが、言葉には限界があり、時として傷つけることもあると思います。しかし、絵はものを言わない分そっと寄り添うことができます。また、絵本には、悲しみや命の大切さといったテーマのものもあります。単に子どもに読み聞かせるだけではなく、大人の方に自分のこころの支えとなる絵本と出会って欲しいと思います。

—この公開講座についてどのように感じられていますか。

人は大きな悲しみにぶつかった時に、こころの支えがなかったり、こころの整理ができる道がないと本当に苦しいものです。この公開講座は、悲しみをどう私たちが受け止めるべきかを様々な視点から考え、学ぶことができる貴重な場となっています。

—最後にお伝えしたいことはありますか。

悲しみの総量は時間が経っても変わらず、消えることはありません。亡くなった人を忘れることや完全に悲しみをなくすことはできないという覚悟が必要だと思います。しかし、優しい人のこころに触れることや美しいものを観ることにより、固く小さく縮こまっていたこころは少しずつ成長し膨らみます。そして、そこに夢を入れることができるようになります。夢で悲しみを温めていくことで、こころの中が悲しみでいっぱい状況から脱け出ることを信じて欲しいと思います。こころは成長すると信じることができ、生きていく中にはたくさんあります。

私は今後も、皆さんが膨らませたこころの中に大切に置いていただけるような絵を描いていきたいと思っています。



## 公募助成先の活動予定

現在助成を行っている団体の今後の活動予定をご紹介します。  
詳細につきましては、各団体へ直接お問い合わせください。

### NPO法人オーシャンゲート ジャパン

(TEL:06-6212-6277 又は E-mail:oceangate@fancy.ocn.ne.jp)

#### 子ども応急手当普及&水面安全サポーター育成

- 日程：平成 24 年1月 21 日（土）、2月 11 日（祝）、3月 20 日（祝）  
各日とも 10 時～ 17 時
- 場所：白崎海洋公園（和歌山県日高郡由良町大引 960-1）  
※最寄駅 JR 紀伊由良駅下車タクシー乗車 15 分
- 内容：いざという時の子どもに対する応急手当と人工呼吸及びプールや海、川、池などでの水面安全管理方法を学べる体験型学習を温水プールで定期的実施しています。（要事前予約）

### 甲子園口地区まちづくり協議会

(TEL:0798-66-0036 《火・木・土 10～16 時》)

#### 甲子園口いっせい防災訓練

- 日程：平成 24 年1月 21 日（土）9時～ 12 時半
- 場所：西宮市立上甲子園小学校（西宮市甲子園口 5-9-4）  
※最寄駅 JR 甲子園口駅下車南西へ徒歩 8 分
- 内容：第1部（9時～）では武庫川決壊を想定し、防災スピーカーや消防車による避難放送等を合図に甲子園口地区の住民が自治会指定の場所へと避難する訓練を実施します。第2部（10時～）では水流体験、救護体験、土嚢作成、煙体験、東日本大震災被災地派遣の様子の写真展等を西宮市防災安全局、瓦木消防署、上甲子園・甲子園口消防団の協力のもと開催します。

#### 防災講座

- 日程：平成 24 年3月3日（土）10 時～ 11 時半
- 場所：上甲子園センター3階大会議室（西宮市甲子園口 3-9-3）  
※最寄駅 JR 甲子園口駅下車南へ徒歩 2 分

### 大芝連合運営協議会防災部会

(TEL:072-439-5900 《火～金》)

又は E-mail: osiba-k@mk.city.kishiwada.osaka.jp)

#### 冬季防災訓練

- 日程：平成 24 年2月 12 日（日）9 時～ 12 時
- 場所：岸和田市立大芝小学校（岸和田市磯上町 2-4-1）  
※最寄駅南海電鉄春木駅下車北へ徒歩 20 分
- 内容：大阪府地域支援課・消防署・警察署・地域医療機関などの協力を得て、地域住民が中心となった、避難・消火訓練、救護訓練、炊き出しなどの冬季防災訓練を実施します。

### NPO 法人 LOVE&PEACE

(TEL:080-3737-8295)

#### 勉強会：『子どもの目線でみた交通災害の予防と研修プログラム』 ～子ども達が交通災害にあわないために取り組むこと～

- 日程：平成 24 年2月又は3月頃
- ※詳細は今後、ホームページにてお知らせします。

### 認定 NPO 法人日本レスキュー協会

(TEL:072-770-4900 又は E-mail:info@japan-rescue.com)

#### ふれあい会

- 日程：平成 24 年2月4日（土）、3月3日（土）  
各日とも 10 時半～ 12 時
- 場所：日本レスキュー協会（伊丹市下河原 2-2-13）  
※最寄駅 JR 北伊丹駅下車東へ徒歩 15 分
- 内容：セラピードックや保護犬（新しい飼い主を探している犬）との交流を行います。（要事前予約）

### 灯人（ともしび）

(TEL:080-5330-1951)

又は E-mail:tomoshihi0425@gmail.com)

#### 第3回「灯りでつながる夜」

- 日程：平成 24 年2月 18 日（土）17 時～ 20 時
- 場所：三軒寺前広場（伊丹市中央 3）  
※最寄駅 JR 伊丹駅下車西へ徒歩 5 分
- 内容：JR福知山線列車事故をきっかけに生まれた様々な「つながり」を視覚的に表現し、その大切さに気づき合う「場」を「灯り」を用いて創るイベントを開催します。

### 應典院寺町倶楽部

(TEL:06-6771-7641 又は E-mail:info@outenin.com)

#### コムズフェスタ 2012 「文明史の曲がり角～震災×お寺」

- 日程：平成 24 年3月6日（火）～ 15 日（木）
- 場所：應典院（大阪市天王寺区下寺町 1-1-27）  
※最寄駅大阪市営地下鉄谷町 9 丁目下車東へ徒歩 6 分
- 内容：アートとNPOの総合芸術文化祭。被爆ピアノの演奏会や現代美術の展示、講演等を開催します。東日本大震災から1年。表現による喪失からの回復に迫ります。  
※詳細はホームページをご覧ください。

### 頭部外傷や病気による後遺症を持つ若者と家族の会 京都支部

(TEL:075-632-8461)

#### 講演会 『高次脳機能障害について橋本先生と語りましょう』

- 日程：平成 24 年2月 25 日（土）13 時半～ 16 時半
- 場所：京都タワーホテルアネックス B1F 紫野  
（京都市下京区新町塩小路 北西入る東塩小路町）  
※最寄駅 JR 京都駅下車北へ徒歩 4 分
- 内容：高次脳機能障害者のリハビリと社会復帰への対応等、家族介護の心構えと心を軽くするヒントを講師との質疑応答を通して勉強します。（要事前予約、定員 40 名）

### NPO 法人検定協議会

(TEL:078-393-5117)

#### キッズ防災検定

阪神淡路大震災での経験・教訓を伝え、防災に関する知識を身につける検定を兵庫県下の小学校にて実施中。

## 〈協賛を行いました〉

- ・平成 23 年 10 月 16 日（日）、大阪市内で開催された「遺族会ネットワーク」の第 1 回交流会に協賛しました。
- ・平成 23 年 11 月 26 日（土）・27 日（日）、神戸いのちの電話開設 30 周年記念事業として神戸市内で開催された「近畿ブロック研修会」に協賛しました。

公募助成の応募受付が終了いたしました。今年も多くのご応募をいただき、本当にありがとうございました。また、募集期間中には、多くの問い合わせもいただきました。その中には、ご自身は活動されていないにもかかわらず、「（活動している）友人に伝えたいから詳しく内容を教えて欲しい」といったお問合せもありました。人には、誰かの為に何かをしたいといった想いがあり、その想いが行動に繋がっていくのだと思います。友人のために問い合わせた方にもその想いがあったからこそ一歩踏み出し、電話をされたのではないのでしょうか。これに限らず公募助成に応募いただいた方の活動や研究にも、また救急フェアなどに参加されている方にもその想いがあると思います。友人のために問い合わせしてくださった方から改めてそのことを気づかされました。私たちは、その想いを大切にしながら事業を進めていきたいと思っています。（編集者：小山）